

## 「人間万事塞翁が馬」(知中生の皆さん・保護者の皆様へ)

校長 尾崎 淳一



大雨による被害、コロナウイルス感染者の増加、猛暑の予想……。最近のニュースは、暗い話題が多くなっています。ところで、知中生の皆さんは、次の話を知っていますか。

大昔、中国の北の国境の近くに、一人の老人が住んでいました。

ある日、老人が大切にしていた馬が、国境を越えて隣の国に逃げてしまいました。老人が悲しんでいると思い、近所の人が慰めに訪れると、老人は「これは幸いとなるだろう」と言いました。

数か月後、数頭の立派な馬を引き連れて、逃げた馬が老人の家に戻ってきました。近所の人が喜んでお祝いに行くと、老人は「これは災いとなるだろう」と言いました。

ある時、老人の息子がその立派な馬に乗っていたところ、落馬して脚の骨を折る大けがを負いました。心配した近所の人がお見舞いに行くと、老人は「これは幸いとなるだろう」と言いました。

何か月か過ぎた頃、隣の国と戦争が始まりました。ほとんどの若者は激しい戦いで命を落としましたが、老人の息子は骨折のために兵役をまぬがれ、命が助かりました。

これは、「人間万事塞翁が馬」という故事成語のもとになった話です。人間は〔じんかん〕と読むこともあり、「世の中」という意味です。そのまま訳せば、「世の中はすべてのことが老人の馬のようなものだ」となりますが、分かりやすく言えば、『幸・福・吉と思えることが、後に不幸・禍・凶となることがあり、またその逆もある。世の中に起きる良いことも悪いことも予測は難しく、それに振り回されてはいけない』ということです。

特に3年生の皆さんは、刈谷・知立地区選手権大会など、様々な部活動の大会やコンクールが中止となり、辛い思いを味わいました。まさに、新型コロナウイルスによる「不幸・禍・凶」と言えます。しかし、「人間万事塞翁が馬」のとおり、いつ「幸・福・吉」となるか知れないので、常に前を向いて進んでいくことも大切です。

例えば、運動部は、甲子園に出場しようが全国大会で活躍しようが、ほぼすべての選手が「敗戦」によって、悔しい思いとともに長かった部活動人生を終えます。それを逃れるには全国優勝を果たすしかありません。もちろん至難の業です。

しかし、今年度は違いますよ。25日の『知立市中学校交流大会』に優勝すれば、中学校の部活動を「勝利」で締めくくることができるのです。これこそ「幸・福・吉」です。規模が小さいとか、次の大会がないとか、そこは問題ではありません。形は異なっても、三年間の成果を発揮すべき大切な場であることに違いはないからです。交流大会までのわずかな日々、仲間との大切な時間を過ごしつつ、自分の「得意なこと」を生かしたナイスプレーを目指してください。選手の皆さんの「真剣な姿」を期待しています。「ファイト！」

保護者の皆様のお力添えもあり、『知立市中学校交流大会』を開催することとなりました。感染症や熱中症に最大限の対策をしつつ、安全に大会を進められるよう準備してまいります。御家庭におかれましても、お子様が元気に参加できますよう、御支援をお願いします。

多くの3年生はこの大会で部活動を引退します。ここまで弁当の準備やユニフォーム等の洗濯、試合での声援など、御家族の支えがあってこそ、お子様も最後まで頑張ることができました。心からの感謝を込めて、皆様と共に暑い夏に輝く知中生を応援します！

(令和2年7月14日)